平成２９年度　部局自己評価報告書　（16：教育情報学研究部・教育部）

Ⅲ　部局別評価指標（取組分）

※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

※ 字数の上限：（㉓）～（㉔）合わせて 7,000 字以内

（1）全学の第3期中期目標・中期計画への貢献又は里見ビジョンへの貢献とその社会的価値（㉓）

世界大学ランキングでの順位向上に向けた取組（里見ビジョン1①3，5⑪2，中期計画43，70）

・ 本部局は，**修士課程**における**定員充足率は** 116.7%であるところ，**69.0%の留学生率**を誇っている。これは「外国人留学生特別選抜」を含めた柔軟な入試制度や 10 月入学制度に加え，外国人教員を中心とした積極的な入試広報および事前面談等の成果であり，本学の世界ランキング向上に大きく貢献した。（博士課程については，**定員充足率** 100%で，留学生率は 7.7%）

優れた若手・女性・外国人研究者の積極的な登用（里見ビジョン2④3，中期計画9，28）

・ 若手の**女性教員**を引き続き年俸制で雇用し，部局専任教員の**女性率** 12.5%を確保した。ジェンダーバランスに配慮した適切な教員配置が実現できた。また，当該女性教員が主に運営する**学生相談室**は，女子学生（修士課程の 55.2%）だけでなく部局全学生の学修・学生生活・プライベート等の相談窓口となっている。

・ 若手の**外国人教員**を引き続き年俸制で雇用し，部局専任教員の**外国人率** 12.5%を確保した。多様性に配慮した適切な教員配置が実現できた。また，多言語での対応が可能な当該外国人教員により，**国際交流教育部門（学生相談室）**を運営し，留学生（修士課程の 69.0%）の学修・学生生活・事故対応などの相談窓口となっている。また海外への広報や，**留学希望者との相談・面談**などを精力的に実施し，本部局および本学全体の国際化に大きく貢献している。

社会人の学び直し（里見ビジョン4⑧4，中期計画6）

・ 博士課程学生の **73.1%が社会人学生**であり，その多くが教育機関で働いている。本部局は，このような社会人への**リカレント教育**を積極的に提供している。これら学生は，本部局で学位取得によって，**研究者・教育者としてのキャリアパス**を伸長させている。

研究成果の実用化・事業化の促進（里見ビジョン4⑧2，中期計画54）

・ 本部局ではさまざまな**アクティブラーニング教育の支援機器**の開発を推進しており，その一環として，事業化に結実した PF-NOTE（授業収録に合わせて学習者の応答を実時間で収集・記録・分析するシステム）の機能強化を進めた。教員や学生によってスクリーンに投影されたプレゼン資料を，聞き手である学生間で簡便に共有し，各自が関心や疑問をもった箇所をプレゼン資料にマーク付け・コメント付けできる。その後，教員・学生でこのマークやコメントが付けられたプレゼン資料をレビューすることができる。研究室等での学生指導などに活用することを想定している。このように**機能強化された支援機器を引き続き事業化**する準備を進めている。

社会や卒業生との協働の緊密化と連携基盤の拡充（里見ビジョン5⑨2，中期計画81，82）

・ 部局専任教員の 25%が東北大学校友会（萩友会）広報委員となり，東北大学メールマガジン編

纂・配信等の連携強化に大きく貢献している。

個に応じた効果的な情報発信の展開（里見ビジョン5⑪2，中期計画70）

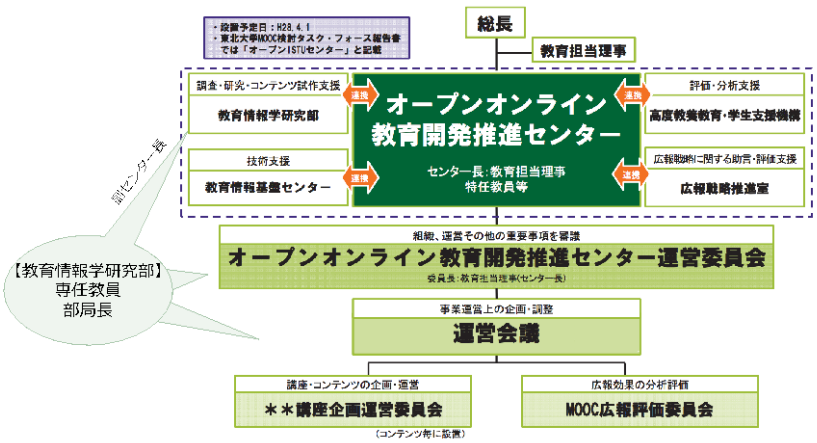
・ 本部局からの入試広報として，入学者獲得のための**多言語（日本語・英語・中国語）**による教育内容・研究内容・入試情報等の発信を行った。また，被災地域での伝統文化伝承を促進するためのウェブコンテンツ「東北芸能伝統アーカイブス」や各教員研究室での研究を紹介するウェブページなど，積極的な情報発信を行った。

(2)〔前記㉓〕のほか東北大学グローバルビジョン（部局ビジョン）の　重点戦略・展開施策の達成状況又は部局の第3期中期目標・中期計画の達成状況とその社会的価値（㉔）

e ラーニング及び対面講義に関わる ICT 活用の支援（部局ビジョン，中期計画１）および**「学び」の質を向上させるための「ICT 活用教育」に関する教育・研究の再構築**（部局重点戦略・展開施策）

・ 本部局は総力をあげて**東北大学全体の e ラーニング環境の開発・運用を支援**している（下図参照）。学内向けの ISTU（東北大学インターネットスクール）については，本部局に設置した**「ISTU 支援室」**（部局長が ISTU 支援室長，部局全教員が ISTU 支援室会議委員）が，「教育情報基盤センター」（システム運用・保守・ヘルプデスク等）との連携しながら，コンテンツ作成支援，企画支援，評価支援等を推進している。また，学外向けの e ラーニング提供および広報/社会貢献のサービスである**「東北大学 MOOC」**についても，本部局は**「東北大学オープンオンライン教育開発推進センター」**の活動を支え，部局長がその企画・運営・評価等に関わるほか，本部局の熊井教授が**副センター長**として参画している。（下図参照）

・ 本部局が **ISTU と MOOC の両者**に関わることで，ISTU の取組みから得られたノウハウや収録編集機材・スタジオなどを，MOOC にもスムーズに活用することが可能になった。



- ISTU コンテンツの利用は**年間 80 万回**を突破し，年々活用が広まっている（下図参照）。本部局および教育情報基盤センターの教職員だけでは，支援業務を継続的に拡充することが困難になるほど，ISTU の利用が浸透している。

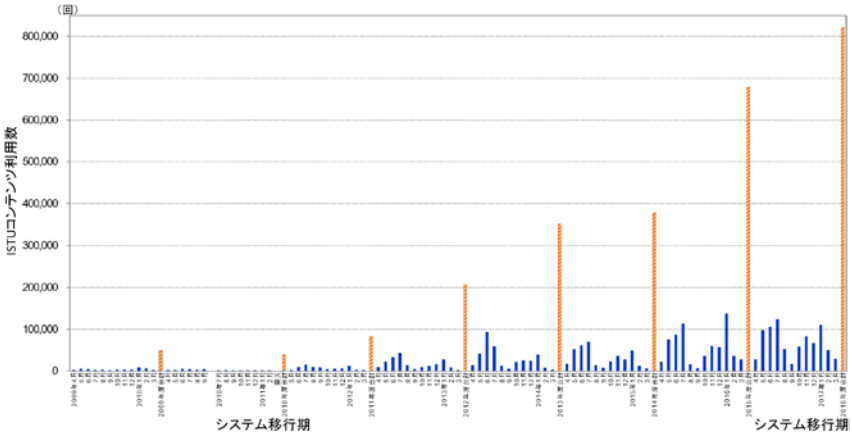


図　ISTUコンテンツ利用数の経年変化（2017年3月まで、旧・現・新ISTUシステムでの利用を含む）

- ISTU は学生の**「学びのスタイル」の多様化**に柔軟に応えることができている。下図に示すように，昼間だけでなく，**夜間から早朝**にかけての利用も少なくない。また，平日だけでなく，**土日や祝日**の利用も少なくなく，主体的な予習や復習を巻き込んだアクティブラーニングに ISTU が活用されていることが伺える。

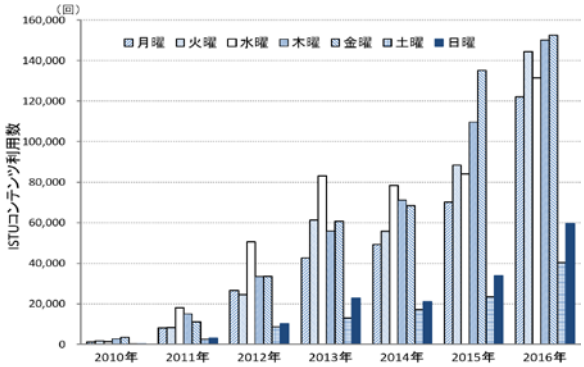


図　曜日別のISTUコンテンツ利用数（現ISTUシステムでの利用のみ）

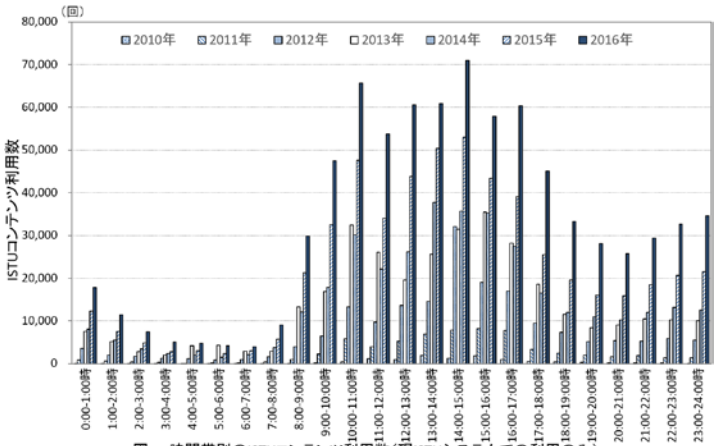


図　時間帯別のISTUコンテンツ利用数（現ISTUシステムでの利用のみ）

- ISTU は大学院教育から始まったが，現在では学部の専門教育や全学教育にも浸透しつつある。**アンケート調査**を実施したところ，利用者（学生・教員）からは，以下のような高い評価を得ていることがわかった。
  - ・「ISTU を使うと、いつでも授業が受けられる」
  - ・「ISTU を使うと、勉強したい時に効率的に勉強できる」
  - ・「ISTU を使うと学習する場所がある程度自由になる」
  - ・「家で課題提出できるのが便利である」
  - ・「ISTU を使うと自分のペースで学習できる」
  - ・「ISTU では、分からなくなった時に何度でも同じ箇所を繰り返し学ぶことができる」
  - ・「教室で受けている対面講義で分からなかった箇所の復習を ISTU を使ってできるので学習効果が高まる」
  - ・「ISTU は自分の学習に役立った」
  - ・「機会があればこれからも ISTU を利用したい」

- **「東北大学 MOOC」**については，平成 28 年度は MOOC 始動の年であり，コンテンツ開発および MOOC の開講・運営を支援した。具体的には，「東北大学サイエンスシリーズ」の第１弾として「解明：オーロラの謎（理学研究科 小原教授）と，「東北大学で学ぶ高度教養シリーズ」の第１弾として「memento mori ―死を想え―（文学研究科 鈴木教授)」の２講座を開講し，合わせて **6000 名の受講登録**を得ることができた。本部局は「東北大学オープンオンライン教育開発推進センター」によるこれら講座のコンテンツ開発・運用を，企画・運営・評価の支援面，および運用ノウハウや収録編集機材・スタジオ等の柔軟な活用面などで，全面的に協力している。